

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471902658
法人名	株式会社スマイル
事業所名	スマイル住まいる走水
訪問調査日	平成 19 年 12 月 6 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 22 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1471902658
法人名	株式会社スマイル
事業所名	スマイル住まいる走水
所在地	神奈川県横須賀市走水1-1-6 (電話) 046-846-5210

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2
訪問調査日	平成 19年 12月 6日 評価確定日 平成 20年 1月 22日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 5月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	2階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(360,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月6日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	76歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大畑医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人のカリキュラムに添って、内部、外部研修の受講機会を確保し、職員の資質向上に努めている。
職員は利用者本人の力を引き出すことを目標に、見守りによるケアを実践している。
同じ建物内に同一法人のデイサービスがあり、利用者がデイサービスの体操や行事に参加したり、緊急時にはデイサービスの看護師が対応するなど、連携をはかっている。
公募でボランティアを募集したり、近隣の小学校と交流するなど、開かれた事業所を目指し、地域との連携を大切に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の受審は今回で3回目になる。今までの評価結果をもとに、改善に活かすよう努めている。家族の意見を聞くために、面会簿の裏に「連絡欄」を設けたり、モニタリングの実施にあたっては、職員が交代で担当するなど改善している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	事前に、外部評価の受審にあたり、訪問調査がある事を、ミーティングで職員にレクチャーしている。自己評価には、職員全員が目を通して作成した。多くの職員が日常のケアを自己点検する結果になり、多くの気付きを得る機会となっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	市の指導により、大津ブロックのグループホーム4事業所合同による運営推進会議を今までに3回開催した。会議には市、民生委員、地域包括支援センター職員が参加し、事業報告や協力体制、共通の課題などについて話し合う機会となっている。次年度からは、グループホームごとに、利用者や家族の参加を得て、地域ケア会議を運営推進会議とともに開催する予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月1回「走水だより」を発行し、利用者の様子を家族に伝えている。面会簿の裏に意見欄を設けて、家族との連絡を密にするよう努めている。次年度より、グループホームごとに開催する地域ケア会議には、利用者や利用者家族の代表が出席することになっており、事業所としては利用者や利用者家族の忌憚のない意見が聞けることを期待している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、事業所が毎月発行している「走水だより」を回覧してもらうなど、地域との交流に努めている。地域の夏祭り、小学校の運動会や音楽会に参加している。またボランティアを募集し、現在週3回地域のボランティアに活躍してもらっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「活力ある福祉社会の貢献」という法人の基本理念を基に、グループホーム独自の理念を持っている。独自の理念は、平易な5つの文で書かれ、開所2年目に職員全員で作ったもので、毎日のケアの目標となるものとなっている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念を事務所の額に掲げ、毎朝唱和している。グループホーム独自の理念は階段の上がり口に額に掲げている。独自の理念は、職員が自分達の言葉で作ったもので、新人の職員にも浸透させており、毎日のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、事業所が毎月発行している「走水だより」を回覧してもらうなど、地域との交流に努めている。地域の夏祭り、小学校の運動会や音楽会に参加している。また、ボランティアを新聞の折り込みで募集し、現在週3回地域のボランティアが活躍している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の受審は3回目になる。過去2回の外部評価の結果を参考に改善に努めている。今回の外部評価も事前に職員に評価についてレクチャーし、自己評価にあたっては、職員全員で点検し多くの気づきを得る機会となっている。評価結果を真摯に受け止めて、さらに改善に取り組んでいく意向である。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の指導により、昨年度から大津ブロックの生活圈4つのグループホーム合同で運営推進会議を開催し、今までに3回開催している。市、民生委員、地域包括支援センター職員が参加し、事業報告や協力体制などについて話し合っている。利用者や利用者家族の参加は、次年度から地域ケア会議として、運営推進会議とともに行う予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の研修会には積極的に参加しており、市の担当課とは折りに触れて連絡を取っている。市からは市全体のグループホームの空き情報を提供している。また、横須賀市グループホーム連絡協議会に加入している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回、広報誌「走水だより」とともに、預かり金の金銭報告とケア記録のコピーを家族に送付している。また、家族の面会時には、連絡事項だけでなく利用者の様子も話すようにしている。緊急時には、電話で連絡を取っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情は今までにないが、意見等を出してもらうために今年度から面会簿の裏に連絡事項を書く欄を設けた。次年度から運営推進会議とともに行う地域ケア会議に、利用者や利用者家族の代表が参加する予定になっているので、事業所としては利用者や利用者家族の忌たんのない意見が聞けることを期待している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、利用者の様子を見て、利用者の不安を抑える意味で当日に話をすることで対応した。また離職を防ぐために、研修の強化と年2回の所長面接で職員の希望を聞くようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職後、新任研修を1日行っている。今年度から法人が研修計画を立て、フォローアップ研修を定期的に行っている。また、外部研修も積極的に奨励しており、希望すれば勤務シフトの組み換えや出勤扱いとしている。習得した知識は、報告書の作成やミーティング時に報告して職員間で共有し、欠席者には議事録を回覧している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横須賀市グループホーム連絡協議会で、市内のグループホームとネットワークを組んで、交換研修などを行っている。また、大津ブロックの4つのグループホームで相互に見学を行い、4つのグループホーム合同で開催している運営推進会議では、問題の共有化をはかっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学にはいつでも応じている。体験入居の体制はとっていないが、本人や家族の見学、同一建物の階下のデイサービスの利用者が入居を申し込むケースが多く、現在も待機がある。半年に1度は待機者の意思の確認をするなどの対応をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「手を出さな、口を出さな、目を離さな」を合い言葉に、見守りを主として、本人ができることを一緒に行うケアを実践している。</p> <p>訪問調査日も、利用者が職員に若い頃の蓄財の体験を伝授する場面が見られるなど、職員と共に支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>月代わりの担当制にしており、1ヶ月間は特に一人の利用者に密着して、その人の思いや暮らし方の把握に努めている。</p> <p>利用者に関して、どんな小さなことでも、気づいた事を「気づきシート」と呼ばれるメモに書き込んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月代わりの担当制にしており、モニタリングも当番制で行っている。気づいた事を記載した「気づきシート」の情報は個人ファイルに綴じ、カンファレンスの時にも情報として共有している。介護計画は本人や家族に原案を示し、意見を確</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>原則は6ヶ月毎の見直しではあるが、1ヶ月に1度のカンファレンスの時に、見直しなどについて意見を出し、朝夕の申し送り時に指示を出している。状況が急変した時は、すぐに介護計画を見直している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階にある同一法人のデイサービスの行事に、グループホームの利用者も参加している。デイサービスの午後の体操には利用者が参加することが多く、利用者も楽しみにしている。また、日中の緊急時にはデイサービスの看護師が対応するなど、連携をはかっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の内科医の往診のほか、歯科医が毎週来ている。内科は24時間対応で、緊急の場合は電話で指示を仰ぐ体制になっている。 入居前のかかりつけ医には、家族対応で行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療体制が整わないので、重度化には対応しないことを職員間で確認している。現在入居している利用者が今後時を経て重度化していく時は、改めて考える意向である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけは穏やかで、必ず利用者を個人名で呼んでおり、利用者目線を合わせて話している。来客対応中でも、不穏な利用者目線を合わせて、「あとでゆっくり聞かぬ」と耳元で声をかけている。 記録等は事務室のロッカーに保管し、鍵がかかる仕組みになっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	法人で計画する旅行への参加は、本人の意思を尊重している。昼食を時には海風公園で食べたり、買い物を利用者が喜ぶドライブに変えたりしている。朝食も無理強いせず、起きてこない利用者には後で食べてもらうよう、一人ひとりのペースに配慮して支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝夕は献立が決まっているが、昼食は利用者と職員で献立を決めて食材を発注する。時には買い物に出たついでに献立が変わることもある。 訪問調査日は、利用者がじゃがいもの皮むきから手伝い、味噌汁やご飯の盛り付けを行っていた。職員も同じ食事をし、さりげなく援助していた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日いつでも入れるが、概ね2日に1度である。入浴が好きではない利用者が多く、「お風呂に入りましょうか」と誘ったり、「気持ちいいですよ」と声かけを丹念にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの楽しみを見つけて、楽しみを活かすよう取り組んでいる。体を動かすことが得意な人はデイサービスの体操に参加したり、洋裁の得意だった人に繕い物を頼んだりしている。また、釣りの好きな人とは地の利を活かし、近くの海つり公園に釣りに出かけたりしている。皆でおはぎや菓子を作るのを楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の多くは歩くより車に乗ることが好きで、散歩よりドライブを好んでいるので、日常的な外出としては車で行く買い物に同行している。デイサービスの体操に参加することで体を動かして、気分転換をはかっている。また、行事や法人で計画している旅行もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は玄関には鍵をかけずにドアチャイムを使用していた。出入りが多く常にチャイムが鳴るので、今は鍵をかけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1階のデイサービスと合同で、今年2回避難訓練を実施した。日中の訓練で、利用者も参加し、消防署に協力してもらった。 災害時に備え乾パンと水の備蓄を行っている。近隣との協力体制は今後の課題として考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量を毎回、個人別にチェックし「個人別日毎ケア内容表」に記入している。朝夕の食事のカロリー量等は業者に提供してもらっている。今後は、昼食も含めて栄養バランスが取れているか調べてもらうとなお良いと考えている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間の窓からは東京湾全体が見渡せ、明るく広々してゆったりと過ごすことができる。居間には畳のコーナーがあり、こたつに入ったりふちに腰掛けたりできる。主に洗濯物をたたむ時に便利に使っている。全館バリアフリーである。朝食後や臭いが気になった時は線香やお香をたいている。テレビは必要時以外はつけずに、音楽を流してリラックスできるようにしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は6畳の板張りにエアコンと洗面所がついている。広いスペースに、思い思いのベッドやたんす、テーブル、マッサージチェアなどを持ちこんでいる利用者もいる。仏壇や家族の写真などもあり、自分の生活を大切に暮らしている。</p>		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	スマイル住まいる走水
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市走水1-1-6
記入者名 (管理者)	佐々木 知子
記入日	平成 19 年 10 月 28 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		新しくスタッフが入社した場合には、改めて理念を確認・見直してスタッフ皆の意見を取り入れていく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		町内会の集会に今後も参加をし、グループホームの存在を知っていただきたい。「走水だより」は回覧版として地域の方々に見てもらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所としては取り組めていない。運営推進会議の中での話し合いはされている。		町内会の集会に参加し、これから信頼や相談などを気軽にしてもらえるような関係を築いていきたい。 来年度から新しい体制で取り組まれる運営推進会議の中で、積極的に地域貢献に繋がる役割を探していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をすることで日々の振り返りをし、結果をスタッフ皆で確認。改善点についてはカンファレンスなどでさらに話し合いをしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ブロック内のグループホーム(4事業所)で、それぞれのサービス内容などを報告し、また民生委員の方の意見なども参考に質の向上を目的にした意見交換がされている。		ブロック内での活発な意見交換から、今後は地域の方々への積極的な働きかけをしていきたい。(認知症で困っているご家族の方の相談受け・認知症についての勉強会 etc)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が開催する説明会へは参加している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	スタッフが地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を提供できていない。		市などが開催している勉強会などを調べ、スタッフが学べる機会を作る。 利用者個々の必要が生じた場合、地域包括支援センターへの相談をする。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どういった行為が虐待になるのかスタッフ全員が把握できていない。 また、学ぶ機会を提供できていない。		市が開催している勉強会などを調べ、スタッフが学べる機会を作る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書に沿ってグループホームの運営理念や方針、生活の様子など時間をかけてご家族の方へ説明をし、不安や疑問点はいつでも連絡をして下さいと話している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>共有の場ではなく、それぞれの部屋で話しをする時間を作り話し易い状況で意見や要望、苦情を聞き取るようにしている。</p> <p>必要に応じて、スタッフ皆で対応を考えている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月、個別に日々の生活の様子を記録したもの、お小遣い帳、「走水だより」をご家族へ郵送している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情窓口を明記している。</p> <p>また、面会簿に意見や要望などを記入できる欄を設け書いてもらうようにしている。ス</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月スタッフミーティングを開催している。遅番・夜勤勤務者以外は出席するように努めている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎月のスタッフミーティングは開催しているが、必要に応じてのケアカンファレンスに当てる時間帯の確保は勤務状況による。</p>		<p>ケアカンファレンスに当てる時間を確保し、より柔軟に利用者の方に対応できるようにしていく。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>見慣れない顔のスタッフが対応することで、認知症の方が戸惑うことあり。馴染みのスタッフが側にいて、不安を感じないようにしている。</p>		<p>認知症の方の介護は、身体的・精神的に大変という理由で離職する人もいる。スタッフが一人で悩みを抱え込まないようにミーティングなど話し合う時間を持つ。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に向けては、研修委員会を作り定期的に介護実技などの研修を開催している。また、外部の研修も社内回覧でスタッフに案内して自己研鑽の呼びかけをしている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市のグループホーム協会に加入し、協会の主催する勉強会や説明会・グループホーム間の見学会などに参加している。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフ一人で認知症の方の対応について悩みを抱え込まないように、スタッフミーティングや日々、時間を作って話しが出来るように努めている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者やスタッフに自己評価をしてもらい面接を実施している。より能力、職責、成果に対する部分を重視し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来るのはご家族だけのことが多い。ご入居の申し込みがあり、空き部屋が出来た場合はご本人に直接会いに行き(アセスメント時)、話しをよく聴くようにしている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご入居の申し込みを受けてからご本人・ご家族に直接会いに行っても、ご利用開始となるまでいつでも連絡をして下さいというのを伝えている。また、来訪時はこちらから聞く姿勢を常に意識している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに見学に来られた方には時間をかけて十分に話しを聞き、空き部屋があるグループホームを紹介したり他のサービスがあることも説明するよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご入居される方によって対応が違っているのが現状。ご本人と一緒に見学に来られ雰囲気確かめるかたもいるが、実際は他施設からの入居となる場合が多くサービス利用は入居日当日となることが多い。		今後、ご入居が決まった際はご家族の方にもご理解いただき出来ればサービス利用前、グループホームに何度か来ていただき、雰囲気に馴染めるよう関係を築いていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームは認知症高齢者の方が主体となって生活をする場であることを意識して働いている。「出来ることは一緒に」を常に心がけて関わりを持っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方も一緒に楽しめる行事の提供を心がけている。家族会を開催し、悩みや不安も話し合えるようにしている。		家族会は今年の6月に初めて実施。今後もご家族の方のご本人に対する要望や意見などを聞いていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式によるアセスメントを実施。ご家族を含めた本人の現在に至るまでの情報を聞き取るようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場・物が大切であることをご家族の方にも理解していただき、協力が必要な場合には相談をしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の方同士の関わりをスタッフは注意して観察し、支えあいが見られる場合にはその関係が途切れないよう、また反対にコミュニケーションなどに問題がある場合には不安などを感じないようにスタッフも間に入り関わりを持つようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終わっても、何か困ったことがある場合にはいつでも連絡をして下さいという事を伝えている。		グループホームで行う行事などがある場合には、参加も可能であることを伝えていく。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や思いを聞き逃さない為に、スタッフが気づいたことや本人の言葉・行動を「気づいたこと」シートに随時書き込んでいる。書き込んだ内容は必要に応じてスタッフ間で相談し対応している。		ケアカンファレンスに当てる時間を確保し、「気づいたこと」シートをもっと活かしていく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によるアセスメントを実施。ご家族を含めた本人の現在に至るまでの情報を聞き取るようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活の様子を日勤者・夜勤者が記録し、出勤したスタッフ（早番・日勤・遅番・夜勤者）は必ず目を通すようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族のかたには、計画作成時に関わらず面会に来られた時などに随時、要望や意見を聞くようにしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に合わせた見直しは行っているが、必要に応じた介護計画の見直しや作成は現状できていない。また、ケアの見直しは行っているが、介護計画書の変更に反映されていない。		ケアの見直しを行った際には、介護計画書も随時書き直ししていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子を日勤者・夜勤者が記録し、出勤したスタッフ(早番・日勤・遅番・夜勤者)は必ず目を通すようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階にデイサービスが併設されているので、年中行事などが催される時にはグループホームの利用者の方も一緒に参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の小学校からは、音楽会や運動会に招待を受けている。 週3回、ボランティアの方が来ている。		本人の意向や要望があれば、地域の活動に参加していけるよう取り組む。町内会の会合などにこれからも積極的に参加し、関係を築いていく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在まで、グループホーム以外のサービス利用を希望する方はいない。		今後、そのような要望がある場合には他のケアマネジャーの方やサービス事業者と連絡を取り利用するための支援を行う。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状、地域包括支援センターとの関わりは3ヶ月に1度開催される運営推進会議の時のみ。		権利擁護についての意向や必要性が発生した場合には、地域包括支援センターへの連絡・相談を円滑に行う。また、今後は運営推進会議においても、地域包括支援センターと協働のできる活動を模索していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間いつでも連絡の取れる往診医療機関がある。 利用者の身体で気になる事がある場合には家族に報告し、往診医療機関へ相談・又は専門医療機関へ受診できるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師との関係作りは今後の課題。		メンタルクリニック主催による、認知症の方についての説明会などには参加している。職員や家族が相談したり治療を受けることができるように関係を築いていきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携・看護職員の確保は今後の課題。		医療知識が必要な判断が求められるときや今後医療的な処置が必要となった場合など、気軽に相談できる看護職員を確保していくことが今後の課題。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時には、病院関係者との情報を交換している。必要な場合はご家族と一緒に病院へ行って説明を受けている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療機関から終末期となり医療行為が必要と判断を受けた場合には、現在は退去という方針である。ご家族には身体状況の変化があった場合に都度説明をしている。また、契約の際、介護度が重度化し、本人にも負担となるような状況が発生した場合には特別養護老人ホームへの入所もあり得ることを説明している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、介護度の急激な重度化や終末期を迎えた利用者の方はいないが徐々に重度化していく可能性は考えられる。スタッフ間で常に利用者の方にとって一番良い方法を話し合っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他のグループホームや施設に入居される方が、移り住んだ先で不便や思いや戸惑いを感じないようにケア関係者の方に説明し情報を交換している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>共同生活をしている場であるので、一人ひとりの利用者が暮らしにくさを感じないように常に一緒に暮らしている方との関係にも配慮しながら(声の大きさ・伝え方・場所)対応している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせた言葉で説明をしたり、質問の方法を一言で答えられるものではなく、自分の意思を伝えられるような質問に変えてみたり工夫をしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>グループホームで生活している利用者の方が主体であって、スタッフは出来ないところ、必要なところを支援するように心掛けている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>パーマやカラーを希望する利用者の方は、近所の美容室へ出かけている。また、週1回、訪問理容も来ている。また、利用者の方の生活習慣を大切にし作務衣を好まれる方やスカートを好まれる方等、それぞれの過ごしやすい服装で暮らしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材配達サービスを利用しており、献立は朝・夕と決っているが、必要に応じてオリジナルのメニューに変えている。また、昼は自分達でメニューを考え、利用者の方の馴染みの味や季節の食べ物を取り入れている。食事の準備は食材を切るところから出来るかたは一緒に行っている。盛り付けも一緒に行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒は行事の時など、希望される方がいるのでその時は好みのものを用意している。生活習慣はグループホームに入居しても変わらないように、継続できるよう支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握するために、24時間の排泄チェック表を利用している。より細かい情報を集めたいときには、センター方式のシートを利用し出来ること・可能なことを探っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入れるように準備している。曜日は決めていない。時間の希望がある場合は希望に合わせて夕方から入浴している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時々睡眠時間に応じて、昼間でも無理に起こしたりせずに必要な睡眠(時間をみながら)を取れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	好きなこと・興味のあることは一人ひとり違うので、常に利用者の方が皆で一緒にするのではなく、スタッフが個別でケアもしている。散歩や買い物へ行ったり、洗濯ものをたたんだり。本を見たり、歌をうたったり。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、買い物へ出かけてもお財布はスタッフが持ち支払いもスタッフがやっている。		買い物へ行って、自分で好きなものを買ってきたという感覚が大事。出来ること・できないことを見極め支援していく。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの希望があれば、散歩やドライブ、買い物に行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人ひとりが行ってみたい場所への外出よりは、利用者全員で外出する機会が多い。季節の花を見に出かけたり、水族館へ出かけたり。		ご家族の協力も得て個別での対応も今後は支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合には、子機を使用し電話をしている。手紙も届いた時は返事を書けるようはがきを買っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間は特に設けず、いつでも来ていただけるようにしている。 グループホームの様子を知っていただくように「走水だより」と言う写真付きの便りをご家族へ郵送している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、スタッフ全員が具体的な行為を正しく理解するようにしていく。		身体拘束に対する具体的な行為を正しく理解していくように努める。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関はデイサービスが併設されており利用者の方の安全の為、鍵がかかっている。2階入り口は、現状鍵がかかっている。(センサーを付けていたが、頻繁に音が鳴る事で不快な音になってしまう)		日中、2階入り口のドアの鍵はかけず再度、音で知らせるセンサーなどを探しドアからの出入りがあった場合にはスタッフが気づくように工夫していく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は食堂で過ごされる方が多い。食堂には必ずスタッフが1名いるようにしている。動きの活発な利用者は所在の把握をスタッフ間で共有している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	口にものを運んでしまう方の部屋には、害になるようなものを目のつく場所に置かない工夫をしている。本人が管理できる場合には部屋に置いている。(化粧品など)		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起きた時の対応はマニュアルに作ってあるが、防止の為の取り組みは常に危険が予測される場合、スタッフ間で防止の為の方法を話し合っている。(転倒や誤薬)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	心肺蘇生法を朝の申し送りの際、日勤者・夜勤者で行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は事業所で年2回実施している。(昼間の場合と夜間を想定し)		地域の人々の協力を得られるような働きかけは実施できていない。町内会の防災訓練などに参加していく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約の際、重要事項説明書の説明をしておりグループホームの運営理念を時間をかけてお伝えしている。その中で起こり得る危険についても説明。大切にしていきたいことを理解していただけるように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、個別記録に記入している。(食事量・排尿回数・排便日も記録)いつもと変化があった場合、申し送りをしスタッフが変わっても情報を共有できるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用している薬が分かる一覧をファイルで綴じている。副作用についても記載されており、いつでも確認できるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を多めに摂取するように工夫したり、乳酸菌を含む食品を摂取するように工夫している。散歩や少しの時間でも身体を動かすように声をかけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施。自分で磨けるかたは自分で磨いている。必要な場合、介助している。義歯の方は就寝前に洗浄剤を使用している。週1回、訪問歯科の往診あり。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介助や声をかけ見守りが必要な方には利用者に合わせた食事量を摂取できるように支援している。水分摂取に関しては、特に注意して声をかけ飲んでもらうようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症のマニュアルを作成。		マニュアルに沿った取り決めを実践していく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜間、布巾などは漂白している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物が福祉施設と分かりづらい為、入り口利用者の方と一緒に作った看板を設置。掲示板には、行事やお知らせがあるときポスターを貼って気軽に来ていただけるように心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼間、日差しが入る時はなるべく室内の照明はつけず自然の明るさにしている。見ていないテレビは消して、利用者の好きな音楽をかけるようにしている。排泄後の臭いにも配慮し、芳香剤の臭いよりはお香の香りを楽しめるようにしている。（ひのきの香りは消臭効果あり）		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳に腰掛け休んだり、廊下の一角で椅子に腰かけ話しが出来るにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていたものを出来るだけ変えずに、居心地の良い部屋であるようにご家族に説明し、協力してもらっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	部屋の温度は動いているスタッフに合わせるのではなく、利用者に合わせた温度調節をしている。外の気温を感じていただく意味でも窓を開けて空気の入替えは随時している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	廊下やトイレなどには手すりを設置。居室に関しても必要に応じて手すりを取り付けている。また、ベッドやタンスの位置も動線を考えて配置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分かりずらさをなくすよう、一人ひとりの馴染みやすい環境、方法で暮らせるようにスタッフが決めるのではなく、利用者の週間ややり易い方法で暮らせるように支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節の花を植えたり、野菜を植えて収穫をしている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご自分で出来ることを大切に、手を出しすぎない介護を心掛けている。

何に困っているのか、どんな支援を必要としているのか利用者の方との関わりを大切にし関わりの中からいろいろな発見をしていきたいという思いで努めている。

その時、出来る事を逃さない。時間などに縛られず、柔軟な対応をしていきたいと考えている。